

# 如水会寄附講義

## 「社会実践論」講義要綱

### (2011年度冬学期)

講義責任者: 筒井 泉雄

2011年10月4日(火)  
オリエンテーション14時40分/15時25分  
東2号館 2201番教室

如水会寄附講義「社会実践論」では、社会の第一線で活躍されている、本学出身の12名の先輩の方々に、オムニバス形式による講義(火曜4限)をお願いしています。

皆さんが、将来への展望を胸に膨らませ、希望を実現するための学問を涵養する指針となるように、また如何に学ぶかを考える指針となるように、「学生時代に何をしてきたか」、「どのように人生を歩んできたか」など、経験に裏打ちされた職業意識、人生哲学、現代産業の現状など、自らの経験を踏まえた講義を、現在第一線で活躍されている先輩の方々にお願いしています。諸先輩講師陣は、自身の歩んでこられた経験と、現在の立場から、社会、日本、世界を鮮やかな切り口で切り取り、現代社会や社会実践のありかたを皆さんの前に、簡潔に広げてくださいます。

皆さんは、講義を聞き、先輩の方々の生き方やグローバルな考え方に触れ、自身と照らし合わせて考え、質疑応答、感想、意見という形で返し、ともに学ぶ場を作り出すことで、キャリア形成の第一歩を踏み出してください。

なお、本講義は、如水会及び一橋大学の学問風土の活性化を目指して、故永井正(22学)氏が寄附された基金をもとに運営されている一橋大学後援会「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」からの資金提供によって運営されています。

	日付	テーマ	講師
第1回	10月 11日 (火)	如水会から見た大学と社会	関 統造
第2回	10月 18日 (火)	金融界で働く面白さ	藤巻 健史
第3回	10月 25日 (火)	就『職』のススメ	但野 謙介
第4回	11月 1日 (火)	国際人になること	高見 詩由(崔雋)
第5回	11月 8日 (火)	監査法人で働く	鹿島 かおる
第6回	11月 15日 (火)	地球を這って見たこと、考えたこと	関野 吉晴
第7回	11月 22日 (火)	農産ビジネスを立ち上げたベンチャーの話	竹熊 俊哉
第8回	11月 29日 (火)	裁判官ってどんな人	竹内 努
第9回	12月 6日 (火)	ワークとライフ	大町 容子
第10回	12月 13日 (火)	IT業界で起業するということ	小椋 一宏
第11回	12月 20日 (火)	家業を継承することとは	小林 政和
第12回	1月 10日 (火)	国家公務員として働いて	黒田 昌義

## 第1回 10月11日(火)



テーマ : 如水会から見た大学と社会  
講師 : 関 統造 社会学部・昭和41年(1966年)卒  
社団法人 如水会 理事・事務局長  
森林インストラクター(東京会、群馬会所属)

大学卒業後、三菱商事に入社、エネルギー関連業務を担当し、New Yorkに2回駐在、中近東、中南米、アフリカ、ヨーロッパ、東南アジア各地を回り、国際取引を通じて貴重な経験を積ませてもらいました。その経験をもとに、青山学院大学で非常勤講師として10年間「エネルギー学」を語る機会も頂きました。教えることは学ぶこと、今でもエネルギーを勉強しております。母校でも如水会寄附講義「エネルギーゼミ」も担当させてもらっています。また、平成12年に「森林インストラクター」の資格を取り、多くの方を野山にご案内するなど、チグハグな人生を送ってきました。その後、縁あって如水会事務局長を拝命し現在に至っております。この講義では、チグハグな人生から得たものと、如水会業務を通じ再認識した母校の素晴らしさを紹介しながら、如水会から見た大学や社会を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

## 第2回 10月18日(火)



テーマ : 金融界で働く面白さ  
講師 : 藤巻 健史 商学部・昭和49年(1974年)卒  
ノースウェスタン大学院 ケロッグスクール・昭和55年(1980年)修了 MBA  
株式会社フジマキ・ジャパン 代表取締役社長

私は非常勤講師として、長年「現代経済ⅡC」という経済学部の講座をお引き受けしているので学生諸君の中には、すでに私の講義を履修している人も多いかと思います。しかし、本講義では「現代経済ⅡC」での客観的な講義とは異なり、私の歩んだ人生を主観的にお話したいと思っています。終身雇用制真っ盛りの時期に「清水の舞台から飛び降りるつもり」で11年勤めた三井信託銀行から米銀のモルガン銀行に転職し、ディーラーとしての抜群の実績を認められて当時、東京市場で唯一の日本人支店長になった経験。そしてヘッジファンドの雄・ソロスのアドバイザーになってからの挫折等(サラリーマンとしては)波乱万丈だった職業人生をお話いたします。それによって、学生諸君が「金融界で働く面白さ」を知っていただければ幸いです。

## 第3回 10月25日(火)



テーマ : 就『職』のススメ  
講師 : 但野 謙介 商学部・平成17年(2005年)卒  
南相馬市議会議員  
元日本放送協会(記者職)、ウィタンアソシエイツ株式会社

大学に入った年9.11のテロが発生し、氷河期の最後の世代として就職。当時は「世の中をハッピーにする仕事がしたい」という一心で記者になりました。

記者として調査報道を手掛けたこと、コンサルタントとしてM&Aの戦略構築にあたったこと、そして今、議員として被災地で復興・復興に立ち向かうこと。立場(雇い主)を変えながら、一貫して「社会問題を扱う仕事」をしています。

世の中は利害関係者が複雑に絡み合いながら、政治・行政・企業・メディアを巻き込み推移していきます。日本ではまだまだ馴染みの薄い「パブリック・アフェアーズ」や「イシュー・マネジメント」と呼ばれる仕事や「政治」の世界について拙い経験ながらも話しさせて頂ければと思います。

## 第4回 11月1日(火)



テーマ : 国際人になること  
講師 : 高見 詩由(崔雋) 商学部・平成12年(2000年)卒  
フジテレビジョン報道局経済部 経済産業省担当

中国から高校を卒業して来日し、キャンパスの美しさに心を打たれて一橋大学に入った。就職活動の時はマスコミの倍率の高さと外国人比率の低さで躊躇したが、留学生課の先生から、「受かる人にとっては倍率100%」と励まされ、フジテレビが採用する最初の留学生になった。その後10年、ずっと報道の最前線で取材して原稿書いて時にレポートしてきた。最近日本の若者は海外に行きたがらない、内向き志向だというのが、海外での経験がどれだけ人生を豊かにしてくれるか。ましてや国の垣根がどんどん低くなっている今、職場、取引先が海外、仲間、ライバルが外国人になることはますます増えるに違いない。前向きに、元気に、アグレッシブに国際人になろう。

## 第5回 11月8日(火)



テーマ : 監査法人で働く

講師 : 鹿島 かおる 商学部・昭和56年(1981年)卒  
新日本有限責任監査法人 常務理事  
コーポレートカルチャー推進室室長、広報室室長

監査法人に勤務して30年がたちました。公認会計士として、法定監査に始まり、公開支援やデューデリジェンス等、様々な業務に従事してきましたが、今は監査を続けながら監査法人の経営に携わっています。監査法人の巨大化も含め、法人内外の環境は大きく変化し、法人としてこの変化にどう対応していくかは緊急の課題です。そのような環境下で、ここ数年公認会計士としての業務以外の役割も経験し、自分自身も激しい変化にいかに対応していくかが課題だと実感しているところです。監査法人での様々な働き方について、皆さんに知っていただくとともに、自分の選んできた働き方についてふり返り、自分にとって仕事とは何かを改めて考える機会としたいと思っています。

## 第6回 11月15日(火)



テーマ : 地球を這って見たこと、考えたこと

講師 : 関野 吉晴 法学部・昭和50年(1975年)卒  
横浜市大医学部・昭和57年(1982年)卒  
探検家、医師、武蔵野美術大学造形学部教授

入学直後に探検部を創設。1971年アマゾン全域踏査隊長としてアマゾン全流を下った後、アマゾン全域を歩く。それ以来20年間アマゾン、アンデスを歩く。その途中医療の必要性を感じて医師となる。その後アフリカで生まれた人類の足跡を辿るグレートジャーニーを始めた。ここ数年間は「海のグレートジャーニー」に専心していた。自然からすべての素材を採取し自分たちで作るというコンセプトで2隻のカヌーを作り、インドネシアから沖縄まで航海した。

今回の講座では何故探検を続けて来たのか。人類の移動、拡散、適応は何故、どのように行われたのか。今後人類はどのような道を歩むのかを語りたい。

## 第7回 11月22日(火)



テーマ : 農産ビジネスを立ち上げたベンチャーの話

講師 : 竹熊 俊哉 商学部・昭和61年(1986年)卒  
株式会社シフラ 代表取締役社長

日本的経営礼賛華やかかなりし中、経営戦略論なるものをかじりながら草創期のキャノンTCで汗をかいたり一橋祭運営委員会で委員長をやったりしました。卒業後(当時の)保守本流新日鉄に入社。バブル景気の中、新規事業として日欧米を舞台にパソコン事業を開始。三極間の調整に追われ鬼のように働いたが累損二百億のすえ撤退。次に起死回生と霞ヶ関向けのSI事業を立上げ。欧米でのビジネスや日本の中枢を垣間見し、21世紀は事業家の時代との意を強くし独立。ITビジネスで参入し日本で最も成功していると言われる農産物ブランドを立ち上げるに至った(恐らくはOBの中でも異色の)経歴を、これからの大変な時代を生きていくことになる皆さんに、生き方、キャリア、人生設計の参考としてお話します。

## 第8回 11月29日(火)



テーマ : 裁判官ってどんな人

講師 : 竹内 努 法学部・平成3年(1991年)卒  
最高裁判所司法研修所 民事裁判教官・判事

法律家の中でも、裁判官はとても遠い存在だという印象を持たれる方が多いのではないのでしょうか。確かに、テレビドラマでも弁護士や検察官は主役になりますが、裁判官はいつも黙って法廷に座っていますね。学生時代の自分にとっても裁判官はそのような存在でした。しかし、裁判官の仕事は皆さんが想像するよりずっと幅広くアクティブです。裁判官の実像はどんなものなのか、裁判官ってどんな人たちなのか、そして法律家への道はどのようなものなのか。簡単な事件例を取り上げつつ、アメリカへの留学やベトナムでの法整備支援活動の経験なども交えながら、お話しさせていただきたいと思います。

## 第9回 12月6日(火)



テーマ :ワークとライフ

講師 :大町 容子 経済学部・平成元年(1989年)卒  
NTTコミュニケーションズ  
アプリケーション&コンテンツサービス部 担当課長

一生働き続けたくて、NTT一社時代に入社し、最初の10年位で、異動で勤務地、職場を8つ経験しました。引越しを伴う転勤も多く、阪神大震災、バリでの数ヶ月に及ぶ交通ストなども乗り越え、自分でも遅くなっていった気がします。

その間、採用、人事業務やグローバル事業、データセンター事業という仕事を経て、現在はスマートフォンのアプリケーションサービス開発関連の仕事に取り組んでいます。

決して、成功している、と言えるようなキャリアが築けているわけでもない、華々しくありませんが、子育てもしながら働き、充実した日々を送っています。少しでも参考になれば幸いです。

## 第10回 12月13日(火)



テーマ :IT業界で起業すること

講師 :小椋 一宏 経済学部・平成11年(1999年)卒  
株式会社HDE 代表取締役 社長

サークルに打ち込み、勉強はあまりしない普通の大学三年生だった私が、なぜかIT企業を興すことになり、軽く足を突っ込むつもりが、社長としてそのまま15年。数年に一度、天変地異のような創造的破壊が起こるIT業界の中で、会社は何度か大成功し、何度か大失敗してつぶれそうになりながらも、なんとか生き残って毎日チャレンジを続けています。IT業界で、いま何が起きているのか。社会におけるベンチャー企業の役割とは何か。そこで働くことの面白さはどこにあるのか。IT業界やベンチャー企業の魅力をお伝えするとともに、社会経験ゼロの状態から起業した私との対話を通して、皆さんに何か有益な新しい気づきを持ち帰っていただければ幸いです。

## 第11回 12月20日(火)



テーマ :家業を継承することとは

講師 :小林 政和 商学部・平成11年(1999年)卒  
新興電機株式会社 取締役

家業を継ぐとは一体何を継ぐのだろうか。皆さんの中にはいずれ家業を継ぐことを決めている方もいるでしょう。私の場合はたまたま結婚相手の実家に家業があり、後継者がいなかったということで、家業を継ぐべく約9年在籍したコンサル業界から義父の経営する町工場(金属プレス業)に転職して3年が経とうとしています。

今はまだ修行中の身であり、冒頭の問いへの明確な答えは出ていませんが、学生時代からこの3年間に至るまでのエピソードを交えながら「なぜ継ぐことにしたのか」「実際に転職してみて何を感じたか」「何を継ごうとしているのか」などについての私なりの考えを伝えてみようと思います。

## 第12回 1月10日(火)



テーマ :国家公務員として働いて

講師 :黒田 昌義 経済学部・平成3年(1991年)卒  
内閣官房副長官秘書官兼内閣参事官(内閣総務官室)  
国土交通省出身

大学3年時に国家公務員を目指し、1年留年して旧建設省に入り、その後、まちづくりや土地・住宅政策の企画立案に携わり、奈良県庁で都市計画の現場経験も積んできました。政権交代後は、国土交通省から内閣官房に出向し、国家戦略室で新成長戦略を執筆し、現在は、総理官邸で、おなじ国会の国会対策を担当しています。学生時代はバブル経済真っ只中で、毎日遊びほうけていましたが、3年生の時にOBの衆議院議員のインターンとして政策立案の現場に立ち会う機会を得て、社会のためになる仕事に就きたいと思い、一念発起して試験勉強しました。私が、中央省庁や地方自治体、総理官邸で取り組んできた仕事を紹介することで公務員としての仕事のやりがいをお伝えできればと思っています。